

## 川野同窓会長の浦高時代…!

●日本経済新聞に川野幸夫会長が!

昨年12月1日の「第1回埼玉セミナー」でご講演いただいた県立浦和高校同窓会会長でヤオコー会長の川野幸夫様から『日本一強いスーパー ヤオコーを創るために母がくれた50の言葉』(川野幸夫著、産経新聞出版刊)をいただきました。

\* \*

### はじめに

よく、「なぜヤオコーさんは不況なのに元気なのですか」と訊ねられることがあり、私はさまざまな理由を挙げています。しかし、実際のところ、「小さくても強い企業」と言われるヤオコーを支えているのは、当社の実質的な創業者である母・川野トモの“遺伝子”がいまでも会社の底流に流れているからだと考えます。母は「商人道」という言葉を、まさに体現した人でした。母の商人としての60年余りは正しい商いの道を、まっしぐらに、しかも一所懸命に歩んできた歴史だったと思います。

\* \*

### 第1章「不況に負けない強い経営力をつけるための言葉」

1.「行き詰まりを打破するには自分が変わるしかない」、4.「誰かのお役に立つという理念がない経営は滅びる」、11.「利益を増やしたければお客さまへのお役立ちを増やそう」

### 第2章「お客さまに好かれ信頼されるための言葉」

19.「心配りを『仕事』にすることが大切」、20.「『あなたがいるから』と思われるような仕事をしよう」

### 第3章「部下を育てるために必要な言葉」

29.「仕事を楽しめる人が増えれば会社は発展する」、31.「明るい人は周りも自分自身も楽しくさせる」

### 第4章「自分の能力を高めるために覚えておきたい言葉」

41.「プロになりたいなら仕事を『天命』として受け止める」

\* \*

…など、公務員の仕事にも通じる言葉がありました。そこで、私から川野様へお礼のメールをお送りすると、返信には1月6日から10日まで日本経済新聞夕刊「人間発見」のコーナーで取り上げられた記事が添付されていました。その中に浦高時代入学前後の川野様の事ことが…。

\* \*

### ■文武両道のわんぱく少年 小中は剣道に熱中

私は子どもの頃はわんぱくで、勉強も運動も比較的良好にできました。夢中になったのは友人に誘われて始めた剣道です。警察の剣道場がけいこ場で、子どもの頃には禁じ手だった「突き」を教えたり、

取っ組み合いをさせたり、ずいぶん荒っぽい方が指導者でした。めきめき上達し、小学生時代に埼玉県の大会で優勝。中学校では自ら先頭に立って剣道部を立ち上げました。一本勝負の大会で13人抜きをするなど、「腕に覚えあり」です。

### ◇高校は自宅から近い熊谷高校ではなく、浦和高校に進学。ここで剣道をやめることになる。

通常、小川町で勉強できる中学生は熊谷高校、つぎにできる生徒は川越高校に進むこととなります。ところが私はそれまでの神学パターンを崩しました。

近所に中学校で英語を教えている先生が住んでいました。浦和高校から東京大学へ進んだ方でしたが、昼間から芸者を連れて酒を飲む愉快な人でした。その人になぜか好かれて『俺の後を継いで浦和高校へ進め』と言われました。ちょうど熊谷高校への進学組に好きになれない同級生がいたこともあり、浦和高校に行くことにしました。

浦和高校でも剣道を始めました。入部時にはすでに上級生に負けない腕前でしたが、1年生は浦和高校で開催する大会運営の準備をするなど、下積みが多い。今思えば生意気なのですが、それが嫌でやめてしまいました。

やることもないので、ちょうど下宿先に日本文学全集が60巻まで置いてあり、それを読みふけていました。中身は覚えていません。

\* \*

その後の川野様は、お母様の家を継いでもらいたいという思いであった経済学部への進学希望に反して、社会派弁護士を目指して東大法学部に進学していくのです。そして、大学卒業後はお母様の後を継いでヤオコーを現在の企業に育てる訳です。そして、グローバル人材づくりのために…。

\* \*

### ■母校の後輩を支援、グローバル人材育成

13年末に母校の浦和高校(さいたま市)の同窓会奨学財団の発起人になりました。以前、次男に「日本はだめになった」と話したら、「何を言っているの。おやじたちが今の日本をつくったのだろう」と言い返されて。本当にその通りで、将来のために若者の人材力向上に力を尽くすことが私たち年配者の責務です。グローバルに活躍できるリーダーたるべき人材育成の出発点になればと思い、留学の資金提供などが目的です。経済的に恵まれない生徒への支援もします。日本も企業も衰退しないためのお役に立てればいいですね。

\* \*

浦高120周年記念事業として「一般財団法人立浦和高等学校同窓会奨学財団」が設立され、公益法人への移行も行われ財団が活動を始めました。(〇〇)